

< 運営推進会議における評価 >

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 信和会	事業所名	看護小規模多機能ケアパークこうよう
所在地	(〒031-0801) 八戸市江陽二丁目1-32		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後の行き先が決まらない方を受け入れ、医療機関からの問い合わせに積極的に対応している。</li> <li>・急な訪問や泊まりの相談に対応し、在宅での生活を継続できるよう支援している。</li> </ul>
---

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 12 月 26 日	従業者等自己評価 実施人数	( 11 ) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 3 月 31 日	出席人数 (合計)	( 4 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 2 ) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 (    ) 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 ) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (    ) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 (    ) 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 1 ) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (    ) 人 <input type="checkbox"/> その他 (    ) 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	事業所の役割の理解を深め、さらなるスキルアップのための研修機会を確保する。 職員間の連絡がスムーズに行えるよう、意見交換ができる環境づくりを行なう。	資料による研修をおこなった。 看護師・管理者がいつでも意見を聞けるようにしていた。	時間の都合がつかず外部研修への参加ができなかった。 経験年数が少ない職員研修の必要性はあると思う。 津波対策のマニュアルの訓練が必要。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	利用者の状態変化を早期発見し、柔軟にプラン変更していく。 家族等の状況も把握し、プランに反映する。	職員から状況報告を受け、プランへ反映した。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	地域の方ともかかわる機会を持ち、相談・連携しあえる関係を構築する。	問い合わせに随時対応していた。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	地域の行事などへの参加。 事業所へ気軽に来られるような雰囲気づくり。	併設施設の説明会で地域の方が来る機会があった。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看護小規模多機能としての全体のレベルアップにつながるように可能な限り受け入れをしていく。	医療機関からの問い合わせになるべく応えるようにした。	事業所の人員や利用者の状態によって利用につながらない方もいたが、複数の医療機関から問い合わせをいただけるようになった。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	職員の配置が変わったり、研修への参加が困難だったりして、知識の向上につなげられていない。	事業所の理念や特徴を理解し、サービス提供をおこなう。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	家族からも意向を確認し、サービスを提供するよう努めた。	日々の業務の中で、利用者の変化に気づき、プランに反映する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	医療機関や福祉用具事業者と情報共有を図り、状態にあったサービスの利用ができるよう努めている。	利用者の状態変化をいつでも相談できる体制を整える。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	コロナ禍のため、地域の方々と接点を持つことができなかった。	地域の催し物に参加し、事業所を知っていただく機会を持つ。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	人員を整え、利用者の受け入れを行ってほしい	様々な状態像の方の受け入れをおこない、職員の経験値を上げるよう努める。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		レ			③について、利用者の状態に改善の余地がないか観察するとよい。 ④について、精神的負担軽減にも努めてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		レ				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している				レ		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] 研修計画を作成したが、育成計画の作成には至っていない。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している			レ		外部研修に参加し、レベルアップを図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] 外部研修参加機会の確保が困難で、資料による研修のみであった。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	レ				情報共有の機会を有効に活用してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] 申し送り時以外でも随時、情報交換や共有できる機会がある。					
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要		レ				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「得られた要望・助言等のサービ</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	望、助言等を、サービスの提供等に反映させている						スへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 要望・助言各職員へ申し送るようになっているが、全ての職員が把握しているとまでは言えない。					
<b>② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備</b>							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている			レ		就業環境を整備することで、利用者へ余裕を持った対応ができると思う。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 希望に合わせて休暇を取得できるよう努めている。					
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
<b>① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備</b>							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		レ			内容によって情報共有の手段を使い分けてはどうか（継続していくことはノートで、その場で対処できるものは電話や口頭で、など）。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 申し送りノートや個別記録を確認し、情報共有を図っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		レ			コロナ関連の対策もあればよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</li> <li>対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 非常口が複数あるため、施錠を確認している。 同じ利用者のインシデントが複数発生した際は対応を試行錯誤した。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている					人員不足時の対応も検討しておく、利用者も職員も安心できると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</li> </ul>
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 緊急連絡網を整備し、物資によっては備蓄を用意している（マスク、グローブ、消毒液）。人員不足時の対応については具体化されていない。					
<b>II サービス提供等の評価</b>							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている			レ		家族と話す機会をもうけ、夜間状況の把握につとめてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		レ			看護職から病気の予防についての助言をうけてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目			レ			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利</li> </ul>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	標の達成に向けた計画が作成されている						評価の視点・ 評価にあたっての補足  ユーザーのみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		レ			よくできている、と評価できるようにがんばってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</li> </ul>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている			レ		高齢に伴う変化に応じたプラン作成につとめてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている			レ		状況変化をプランに反映させる努力をしているのがうかがえる。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 本人・家族の相談を受け、その都度、プランを変更し、在宅生活を継続できるよう努めている。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			レ			✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 通い利用がメインだった方に訪問サービスを提供し、居宅での状況把握に努めた。家族不在の方も多く、家族の状況把握には至ってない。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		レ				✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 主治医や福祉用具事業者とは来訪時に情報共有を図っている。ICTを活用し情報共有できている方もいる。					
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		レ				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている			レ			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		レ				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		レ			サービスについてどの職員でも説明できるようになってほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> パンフレットを用意し、相談受付時に説明している。イメージしやすいよう具体的な利用パターンを提示し、理解を得ている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		レ				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 担当者会議時に、計画について説明している。医療面に関することは看護職員から説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説			レ			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 利用者や家族が行う医療処置はあまりな					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	明し、利用者等の理解を得ている	いが、事業所で行なっている処置の内容について説明している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		レ				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 本人・家族と意思疎通を図り、希望の把握に努め、サービスに反映している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		レ				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用開始時に、予想される状況の変化について説明し、利用者・家族等と対応方針を共有している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している			レ			✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] 職員間で話し合ったり、家族に説明したりしていたが、記録は不十分であった。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		レ				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている			レ		<p>すべての利用者について対応方法を確認し、安心につなげてほしい。</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 利用開始時に受診し、緊急時の対応について主治医に相談している方もいるが、できていない方もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携		レ				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている						「築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 夜間は看護師が電話待機し、緊急時は指示を仰ぐことができる。					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている				レ	地域とのかかわりが持てるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</li> </ul>
[具体的な状況・取組内容] 事業所からの情報提供や提案を行うことがなかった。							
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができる				レ	家族や職員への周知が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ような方法での情報発信が、 迅速に行われている	[具体的な状況・取組内容] 通いスペース前の廊下にファイルを吊り 下げている。運営推進会議を知らない職 員もいて、全職員に周知されているとは いえない。					の2つの視点から、充足度を評価 します
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等について、 正しい理解を広めるため、地 域住民向けの積極的な啓発 活動が行われている				レ		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地 域説明会の実施」などの取組が考 えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的と した活動等は除きます</li> </ul>
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介 護事業所の登録者以外を対 象とした訪問看護を積極的 に実施している				レ		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併 せて受けている事業所」のみが対 象です。該当しない場合は、実施 状況欄は無記入で、[具体的な状 況・取組内容]欄に「指定なし」と記 入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看 護」を実施していない場合 は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく</li> </ul>



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足  できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			レ		喀痰吸引の資格保持者が増える事に期待している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] たん吸引に対応できるのが看護師のみで、積極的な受け入れには至っていない。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				レ	前項35同様に、体制が整えられることを期待する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] 受け入れ体制が整っておらず、受け入れ実績がない。					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れること		レ			受け入れ体制づくりを継続してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 緊急時は、看護職員や、看護職員を通して主治医から指示を仰げる体制を整え、看取り支援が必要な利用者の受け入れを行なっている。					✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している				レ	その時々の方針の理解に努めてほしい。  <b>[具体的な状況・取組内容]</b> 地域包括ケアシステムの内容の理解が不十分な職員もおり、研修や理解を深める機会の確保が必要。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している				レ	利用相談に応えられるようにしてください。  <b>[具体的な状況・取組内容]</b> 地域在住の方の受け入れも行なっているが、入院や居宅変更で早期に終了するこ	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		とが多く、特定の集合住宅の利用者にサービス提供がかたよっている。					待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域 の関係者に対し、必要に応じ て課題提起や改善策の提案 等が行われている				レ		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや				レ	集まる機会が再開できればよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	向上のための具体的な取組 等が行われている	<b>【具体的な状況・取組内容】</b> 運営推進会議や高齢者サロンの場を設けて いるが、感染症対策のため、直近1年間で は具体的な取り組みは行えなかった。					組」について、その充足度を評価 します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣 住民の関わりを促しながら、関係 者全員の介護力を最大限に高める ことにより、在宅での療養生活を 支えていくための環境を整えてい くななどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] 利用者のニーズに合わせた計画を作成し、おおむね目標は達成されている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] 訪問看護サービスを利用しない利用者でも、看護職員に心配事を相談することができ、安心につながっている。	今後も安心感を得られるサービスを提供してほしい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている	看取りについて研修などを	✓ 在宅での看取りを希望する利用者お

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>③. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>面会ができるように配慮したり、職員から家族へ連絡を行ったりして、看取りに対する安心感が得られていた。</p>	行なってはどうか。	<p>よびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>